ISSN 2186-5647

5-38

時代性と自動車のボディースタイルに関する相関性について

山家哲雄 照明デザイン研究所　○山家 哲雄

１．はじめ

自動車とは、原動機の動力によって車輪を回転させ、軌条や架線などを用いずに、自力(Auto)で路上を自由に動くこと(Mobile)のできる車両と定義される。

自動車は、人類とともに進化して、そして私たちの社会生活を便利で、かつ大変豊かなものにした。すなわち、自動車の登場によって私たちの生活は大きく変わった。

自動車は、その時々の時代(＝時代性)により、そのボディースタイルデザインが様々に変化している。

なわち、「時代性が自動車のディースタイルを変える」と云っても過言ではなく、その時々の時代の社会環境や購入者の生活のあり方の変化、自動車に関わる諸技術の進化等々により、その時代に求められる自動車のボディースタイル（自動車の外観デザイン）が変化している。

本調査研究では、その時々の時代の自動車について、そのボディースタイルに関する調査と解析を行った。

２．時代性と自動車のボディースタイル

自動車のボディースタイルに関するデザインは、エクステリアデザイン(Exterior design；外観の意匠設計)と呼ばれ、自動車のデザインにおいて、最も注目される領域である。

その時々の時代(＝時代性)によって、購入者のニーズの多様化から様々なスタイルやカテゴリーの自動車が生産され、それぞれ特有の目的に応じたボディースタイルデザインになっている。

時代性(The times characteristics)とは、その時代の性質。その時代らしさ。物事が現在と大きく関わりを持っているさまを意味し、特定の出来事、または特定の期間などで知られている歴史上の期間のことである。または特定の期間などで知られている歴史上の期間のことである。

2.1 国民車構想

1955年（昭和30年）に通産省が“国民車構想”を発表した。それを受けて、1958年（昭和33年）に、コンパクトな軽自動車が発売され爆発的な人気となった。そのスタイルは、欧州の大衆車の流線形をベースとしている。（**図1**参照）

2.2 ファミリーカー

戦後のわが国の高度経済成長期のライフスタイルとして1960年（昭和35）に「マイホーム主義」が挙げられる。一家に一台のファミリーカーは幸せのシンボルとして憧れとなった。そのスタイルは、３ボックスの小型セダンが主流である。（**図2**参照）

2.3 パーソナルカー

時代が進み、1963年（昭和38年）以降には「核家族化」が進みライフスタイルが変化した。それによりファミリーカーを持つことは必要なくなり、個人使用のパーソナルカーの需要が増えた。そのスタイルは、スポーツカーや２ドアクーペスタイルが主流である。（**図3**参照）

2.4 エコカー

1970年代に、2度、「石油ショック」が発生した。自動車はこれの影響を多大に受け、それ以降の自動車は「エコカー」と称する燃費の良い車が主流となった。そのスタイルは、コンパクトなＦＦ大衆車が主流である。（**図4**参照）

2.5 高齢化社会

21世紀を迎えると「高齢化社会」が進み、これに伴い、衝突被害軽減装置や運転支援システム」を供えた自動車が開発された。（**図5**参照）

On the Correlation in the Features of the Era and the Automobile-Body Style

Tetsuo YAMAYA

５．まとめ

1898年（明治31年）、日本で最初の自動車が持ち込まれ、東京の町を走った。

それから125年の時が流れ、日本の自動車は、その時々の時代(＝時代性)とともに進化して来た。今日主流となっているハイブリット車は、今後、環境性能がより優れる電気自動車に代わることが予測される。

自動車のフル電動化およびフル自動運転装置を搭載した自動車が開発され、それに伴い自動車のボディースタイルも変化するものと推察する。

今後の自動車の技術開発およびデザインテクノロジーの進歩に期待したい。

謝　辞

後に、本研究の遂行にあたり、日本大学大学院生産工学研究科 教授 伊藤　浩 先生には、日頃より有益なご助言を賜りました。

日本大学生産工学部には、本研究成果を発表する機会を与えて戴きました。

ここに、ともに感謝の意を表します。

ありがとうございました。

《参考文献》

[01] 山家 哲雄・伊藤　浩:「自動車用照明のデザインテクノロジーの進歩と変遷に関する調査研究　ー フェイシアデザイン および リアデザインの趨勢　ー」、令和4年(第55回)日本大学生産工学部学術講演会講演概要集、5-4、pp.411-414 (2022)

[02] 佐々木　烈:「日本自動車史」、三樹書房、pp.11～282 (2004)

[03] 佐々木　烈:「日本自動車史Ⅱ」、三樹書房、pp.11～283 (2005)

[04] 釜池 光夫:「自動車デザイン　歴史・理論・実務」、樹書房、pp.15～233 (2013)

[05] 青山 元男:「クルクのすべてがわかる事典」、㈱ナツメ社、pp.9～251 (2016)

[06] 高田 公理:「社会変化のなかの日本の自動車」、自動車工業 JAMAGAZINE 誌、(一社)日本自動車工業会、pp.2～9 (2016)

[07] 野崎 博路 監修:「新版 自動車のしくみ」、㈱マイナビ出版、pp.11～232 (2020)

Corresponding Author: Mr. Tetsuo YAMAYA
Affiliation:TETSUO YAMAYA LIGHTING DESIGN LAB
E-mail: tetsuo.yamaya@gmail.com

図1　国民車構想を満足した軽自動車例

図2　ファミリーカーの例

図3　パーソナルカーの例

図4　エコカーの例

図5　衝突被害軽減ブレーキ装置車の例